



2019年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年1月9日

上場会社名 マックスバリュ九州株式会社
 コード番号 3171 URL <http://www.mv-kyushu.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 勉

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理統括部長兼経営管理部
 長 (氏名) 篠崎 岳

TEL 092-260-5001

四半期報告書提出予定日 2019年1月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年2月期第3四半期の業績(2018年3月1日～2018年11月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年2月期第3四半期	133,010	1.6	1,328	101.3	1,346	100.6	661	244.6
2018年2月期第3四半期	130,926	3.0	660	57.6	670	57.6	192	67.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年2月期第3四半期	87.62	87.03
2018年2月期第3四半期	25.46	25.29

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年2月期第3四半期	38,690	14,088	36.2
2018年2月期	36,113	13,609	37.5

(参考)自己資本 2019年2月期第3四半期 14,010百万円 2018年2月期 13,547百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年2月期		0.00		30.00	30.00
2019年2月期		0.00			
2019年2月期(予想)				30.00	30.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2019年2月期の業績予想(2018年3月1日～2019年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	178,000	1.6	2,500	16.5	2,500	15.2	1,000	11.0	132.42

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年2月期3Q	7,559,595 株	2018年2月期	7,551,795 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2019年2月期3Q	147 株	2018年2月期	147 株
------------	-------	----------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年2月期3Q	7,555,108 株	2018年2月期3Q	7,545,469 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における経済環境は、賃金・雇用環境の改善等により引き続き緩やかな景気回復基調にあるものの、海外の政治、経済状況の不確実性や、生活物価の上昇傾向により、生活者の消費購買意欲については、依然として不安定な状況が続いております。

九州における食品小売業界におきましても、ドラッグストアやディスカウントストアの食品販売進出の拡大により競争が激化しております。また、生活物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりや資材・燃料・水道光熱費等の価格の高止まり及び労働単価の上昇が続いており、当社を取り巻く経営環境はより一層厳しさを増しております。

このような経営環境のなか、当社は『すべてはお客様のために』を原点にベストローカルを実現し、九州におけるスーパーマーケット事業のリーディングカンパニーになる」というビジョンのもと、地域のお客様ニーズの変化に対応し、地域シェアを高めるため新規出店及び既存店の活性化を実施するとともに、熾烈な競争に打ち勝つ収益構造の改革に取り組んでおります。

当第3四半期累計期間におきましては、5店舗の新規出店をしました。うち、当第3四半期会計期間におきましては、エクスプレス大濠店(福岡市中央区)とマックスバリュ南長崎店(長崎県長崎市)とマックスバリュ香椎店(福岡市東区)の3店舗を開店しました。

エクスプレス大濠店は、新タイプのエクスプレス都市型店舗として、商品構成や店舗オペレーションの改革に取り組み、コンビニエンスストアの要素を取り入れた店舗運営に取り組んでおります。

マックスバリュ南長崎店は、北部九州・山口でスーパーマーケット事業を展開する株式会社レッドキャベツから承継した店舗で、生鮮を中心に「品揃え」、「品質」、「安さ」、「便利」の向上に取り組んでおります。

マックスバリュ香椎店は、『BRANCH福岡下原』商業施設の核テナントとして出店し、「ライフスタイル提案型」のマックスバリュモデルとして、地域のお客様が楽しく、快適にお買物していただける売場作りに取り組んでおります。

また、既存店舗の活性化として15店舗の改装を実施しております。これにより地域のお客様ニーズに呼応した品揃えや売場に刷新し、生鮮食品を中心に地域・地場商品の拡大を図り、店舗の内外装も一新しております。同時に老朽化した冷凍・冷蔵ケースの入替え等を実行することで、オペレーションコストの削減に取り組ましました。

また、8月末に旬鮮工房(福岡水産パックセンター)を開設し、福岡都市部の小型6店舗へお刺身やお寿司、切り身等の商品供給を行っております。品揃えの標準化・差別化・鮮度の向上を図るとともに、店舗作業の軽減や人時不足を解消し、ローコストオペレーション及び店舗収益力の向上に取り組んでおります。

販売費及び一般管理費につきましては、慢性的な人材確保難や賃金の上昇による労務費用の増大、原油価格上昇による水道光熱費の高騰及び新規出店や既存店舗の活性化によるイニシャルコストの増加等がありましたが、WAONカードによる顧客分析システムの活用によるお客様情報分析や商圏分析を行い、より効率的な販売促進の実施に取り組ましました。また、店舗作業の軽減を目的として、自動発注システムの対象部門拡大による発注作業の効率化や人時不足に対応したお支払セミセルフレジの導入を促進するとともに、後方業務の軽減として、売上金入金機の全店導入が完了致しました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高133,010百万円(前年同四半期比101.6%)、営業利益1,328百万円(前年同四半期比201.3%)、経常利益1,346百万円(前年同四半期比200.6%)、四半期純利益661百万円(前年同四半期比344.6%)と増収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ2,577百万円増加し、38,690百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末から1,921百万円増加し、18,167百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が1,613百万円増加したこと、及び売掛金が416百万円増加したこと等によるものです。

固定資産は、前事業年度末から655百万円増加し、20,523百万円となりました。主な要因は、減価償却費及び減損損失の計上等があったものの、新規出店・既存店改装に伴う資産の取得があったことにより、有形固定資産が466百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ2,098百万円増加し、24,601百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末から2,396百万円増加し、22,528百万円となりました。主な要因は、仕入額の増加により支払手形及び買掛金が1,227百万円増加したことと、賞与引当金が340百万円増加したこと等によるものです。

固定負債は、前事業年度末から298百万円減少し、2,072百万円となりました。主な要因は、長期借入金が返済に伴い260百万円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ479百万円増加し、14,088百万円となりました。主な要因は、配当金の支払226百万円があったものの、四半期純利益661百万円の計上等により、利益剰余金が435百万円増加したこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年2月期の通期の業績予想につきましては、本資料の公表時点において、2018年4月11日発表の決算短信で公表した業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2018年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,426	9,040
売掛金	1,664	2,081
商品	5,023	4,876
貯蔵品	50	49
その他	2,080	2,118
流動資産合計	16,245	18,167
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,998	8,045
土地	2,880	2,875
その他（純額）	2,290	2,715
有形固定資産合計	13,169	13,635
無形固定資産	27	23
投資その他の資産		
差入保証金	4,580	4,702
その他	2,090	2,161
投資その他の資産合計	6,670	6,863
固定資産合計	19,867	20,523
資産合計	36,113	38,690

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2018年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,045	15,272
1年内返済予定の長期借入金	515	375
未払法人税等	562	257
賞与引当金	212	553
役員業績報酬引当金	26	23
店舗閉鎖損失引当金	36	42
資産除去債務	6	31
その他	4,725	5,972
流動負債合計	20,132	22,528
固定負債		
長期借入金	570	310
資産除去債務	969	996
その他	831	766
固定負債合計	2,371	2,072
負債合計	22,503	24,601
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,604	1,608
資本剰余金	1,449	1,454
利益剰余金	10,293	10,729
自己株式	△0	△0
株主資本合計	13,347	13,791
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	200	218
評価・換算差額等合計	200	218
新株予約権	61	78
純資産合計	13,609	14,088
負債純資産合計	36,113	38,690

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2017年3月1日 至 2017年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)
売上高	130,926	133,010
売上原価	100,594	101,714
売上総利益	30,331	31,296
その他の営業収入	1,555	1,641
営業総利益	31,886	32,938
販売費及び一般管理費	31,226	31,609
営業利益	660	1,328
営業外収益		
受取利息	13	12
受取配当金	5	5
受取保険金	13	14
その他	7	12
営業外収益合計	40	44
営業外費用		
支払利息	12	7
その他	17	19
営業外費用合計	29	27
経常利益	670	1,346
特別利益		
固定資産売却益	-	11
特別利益合計	-	11
特別損失		
減損損失	355	219
店舗閉鎖損失引当金繰入額	38	53
特別損失合計	393	272
税引前四半期純利益	277	1,085
法人税、住民税及び事業税	202	528
法人税等調整額	△117	△104
法人税等合計	84	423
四半期純利益	192	661

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。